

# 3

## マナカルkids

エルエーシーコーポレーション（静岡県浜松市）

### プログラミングとコミュニティで論理思考力を養う 人前で自信を持って発表できる子供を育てる

マナカルkidsは、子供達の思考力を高めながらコミュニケーション力を育むことを目的とした、4歳から始められる少人数個別指導教室だ。エルエーシーコーポレーション（静岡県浜松市）の井上智之社長は、21年前に開業したパソコン教室での経験を元に、5年前から独自のカリキュラムを打ち出し、静岡、愛知、福岡、東京でFC6校、直営6校を展開。生徒と保護者に支持され、今や異業種の法人も新規参入を希望するFCだ。

#### 「論理的思考力」を養う

マナカルkidsは、大きく分けて「プログラミング」と「コミュニケーショントレーニング」の2つの講座を行っている。プログラミングは、4〜15歳を対象に、プログラミングソフトを使って、子供達の論理思考力を育むことを目的としている。コミュニケーショントレーニング（通称コミュニティ）は、4〜12歳を対象に、自己表現力を養うことを目的としている。

2つの講座を設けたのには理由がある。井上社長は、「プログラミングもコミュニティも論理思考力を養うためには欠かせない」と話す。「言葉で論理的に相手に話して伝えることと、プログラミング言語でゲームを組み立てる

ことは同じなんです。主語や目的語が抜けていたら、会話もプログラミングも正常に作動しません」

コミュニティでは、話し方を学ぶだけではなく、自分が本当に伝えたいことを相手にわかりやすく伝えるカリキュラムを実践している。例えば、基礎の段階では、大きな声での音読や質問形式で自分の気持ちを伝える「論証」を行い、次の段階でスピーチや落語、ブレインストーミング、ディベートなどで、人前での意見発表にチャレンジする。特徴的なのは、発表を聞く側に求める「賞賛」と「承認」の姿勢だ。

1人が話しを終えた後に皆で拍手を送る「賞賛」、他人の意見に耳を傾ける「承認」を繰り返すことで、「成功体験の積み重ねを味わうことができ、



#### 井上智之 社長 (50)

PROFILE いのうえ・ともゆき  
1967年長崎県生まれ。法政大学経済学部卒。大和証券で勤務したのち、兄の事業に参画。その後、独立し、1996年に現在の会社の前身となる「キッドパソコンスクール」を開業。2013年に「マナカル」事業を中核とした、株式会社エルエーシーコーポレーションに改名し、現在に至る。

子供達が堂々と人前で話せる自信につながっていく」と井上社長は考えている。

#### 大人にも人気の「コミュニティ」

最も受講生が多いのが、プログラミングとコミュニティをセットにした1回

2時間の「ハイパーキッズ講座」。週1回の通学で、受講料は2万円だ。授業の流れは、最初の30分間でコミュニティの実践、次の30分間はより論理的思考を育む「リベラルアーツ」、さらに最後の60分間ではプログラミングを学習する。「リベラルアーツ」は、「算脳」「書脳」「電脳」の3コースから、個人の特性に合わせて選択できる。

開業資金は、加盟金150万円、保証金50万円、研修費30万円、開校セット1式の合計240万円（税別）。そのほかに不動産取得、什器、パソコン、看板、初期広告費として200〜400万円程かかる。ロイヤリティは10%。また、教材は本部から無料で支給されるため、通常の学習塾と比べランニングコストが低い。

授業は、講師1人に対し生徒数は最大8人。収益モデルは、9ヶ月目のFC店舗で月商140万円。家賃25万円、ロイヤリティ10%と経費を差し引いた利益率は約50%になる。

加盟者は個人、法人が半々ずつ。法人の中にはITや建設など異業種からの参入もあり、「コミュニティの効果に期待し、自社の社員教育に導入できる」というメリットを感じて、加盟するところもあるという。

「既成概念がなく、教育業界未経験の方がいいかもしれません。講師は子供達に教えるのではなく、誘導するのが仕事なんです」と井上社長は強調する。